

T&Dダブルブル・ ベア・シリーズ4 (インド・ダブルベア4)

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／株式／特殊型（ブル・ベア型）	
信託期間	2014年12月10日から2016年12月12日まで	
運用方針	信託財産の成長を目指して運用を行います。	
主要運用対象	<p>円建の外国投資信託である「パッシム・トラスト - インディア 2x ベア・ファンド」および親投資信託である「マネーアカウントマザーファンド」を主要投資対象とします。なお、短期金融商品等に直接投資する場合があります。</p>	
	<p>パッシム・トラスト - インディア 2x ベア・ファンド</p>	<p>主として円建の日本国債を投資対象とします。 JPモルガンチェースバンク N. A. ロンドン支店、もしくはJPモルガンチェースグループに属する金融機関をカウンターパーティとしたスワップ取引を行います。概ね純資産相当額程度で行うものとします。 スワップ取引を利用して、実質的に日々の基準価額の値動きがインドの株価指数であるNifty 50指数の日々の騰落率の概ね2倍程度反対となる投資成果を目指して運用を行います。</p>
	<p>マネーアカウントマザーファンド</p>	<p>わが国の国債、公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。</p>
組入制限	<p>投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 株式への直接投資は行いません。 外貨建資産への直接投資は行いません。</p>	
	<p>パッシム・トラスト - インディア 2x ベア・ファンド</p>	<p>店頭オプション、上場オプション、ETFに原則として直接投資は行いません。 有価証券の空売りは行いません。</p>
	<p>マネーアカウントマザーファンド</p>	<p>株式への投資は行いません。 外貨建資産への投資は行いません。</p>
分配方針	<p>分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。</p>	

第1期運用報告書（全体版） （決算日 2015年12月10日）

お客様へ

毎々格別のお引立てにあずかり厚く御礼申し上げます。
さて、「T&Dダブルブル・ベア・シリーズ4（インド・ダブルベア4）」は、2015年12月10日に第1期決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。
今後ともより一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

T&Dアセットマネジメント株式会社

〒108-0014 東京都港区芝5-36-7

お問い合わせ先

投信営業部 03-6722-4810

（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

<http://www.tdasset.co.jp/>

設定以来の運用実績、基準価額の推移等

設定以来の運用実績

決算期	基準価額			債券組入比率	債券先物比率	パッシブ・トラスト・インディア 2x ベア・ファンド組入比率	純資産総額
	(分配落)	税込み分配金	期中騰落率				
設定日 2014年12月10日	円 10,000	円 —	% —	% —	% —	% —	百万円 10
1期 (2015年12月10日)	10,243	0	2.4	0.0	—	93.2	22

(注) 基準価額および分配金は1口当たり。基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 設定日の基準価額および純資産総額には、当初元本を用いております。

(注) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、債券組入比率および債券先物比率は実質比率を記載しております。

(注) 先物比率＝買建比率－売建比率

(注) 当ファンドは、日々の基準価額の値動きが、対象とする国の代表的な株価指数の日々の値動きの概ね2倍程度反対となる投資成果を目指して運用を行います。したがって、たとえ正確に運用目標が達成されたとしても、2日以上離れた日との比較においては概ね2倍程度反対の投資成果が得られる訳ではないため比較が出来ないことから、ベンチマークおよび参考指数は設定しておりません。

当期中の基準価額等の推移

年月日	基準価額		債券組入比率	債券先物比率	パッシブ・トラスト・インディア 2x ベア・ファンド組入比率
		騰落率			
設定日 2014年12月10日	円 10,000	% —	% —	% —	% —
12月末	10,228	2.3	0.0	—	85.0
2015年1月末	8,500	△15.0	0.0	—	93.3
2月末	8,960	△10.4	0.0	—	95.3
3月末	9,259	△7.4	0.0	—	93.7
4月末	9,617	△3.8	0.0	—	94.9
5月末	9,490	△5.1	0.0	—	92.0
6月末	9,312	△6.9	0.0	—	90.7
7月末	8,976	△10.2	—	—	94.9
8月末	9,719	△2.8	—	—	94.9
9月末	9,849	△1.5	—	—	86.7
10月末	9,170	△8.3	0.0	—	93.1
11月末	9,485	△5.2	0.0	—	84.6
期末 2015年12月10日	10,243	2.4	0.0	—	93.2

(注) 基準価額は1口当たり。期末基準価額は分配金込み。騰落率は設定日比。

(注) 設定日の基準価額には、当初元本を用いております。

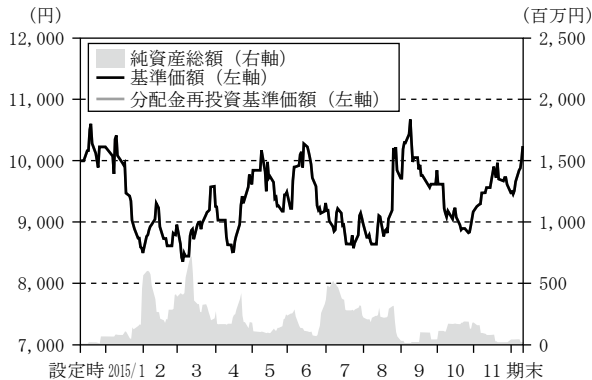
(注) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、債券組入比率および債券先物比率は実質比率を記載しております。

(注) 先物比率＝買建比率－売建比率

(注) 当ファンドは、日々の基準価額の値動きが、対象とする国の代表的な株価指数の日々の値動きの概ね2倍程度反対となる投資成果を目指して運用を行います。したがって、たとえ正確に運用目標が達成されたとしても、2日以上離れた日との比較においては概ね2倍程度反対の投資成果が得られる訳ではないため比較が出来ないことから、ベンチマークおよび参考指数は設定しておりません。

当期の運用状況と今後の運用方針

■ 基準価額等の推移



設定日：10,000円

第1期末：10,243円（既払分配金0円）

騰落率：2.4%（分配金再投資ベース）

- （注）分配金再投資基準価額は、設定日（2014年12月10日）の値が基準価額と同一となるように指数化しています。
- （注）分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- （注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- （注）設定日の基準価額および純資産総額には、当初元本を用いております。

■ 基準価額の主な変動要因

当ファンドは、「パッシブ・トラスト - インディア 2x ベア・ファンド」への投資を通じて、日々の基準価額の値動きが、インドの株価指数であるNifty 50指数の日々の騰落率の概ね2倍程度反対となる投資成果を目指して運用を行いました。Nifty 50指数が下落したものの、期中に上昇・下落を繰り返した結果、組入ファンドは下落しましたが、ブル・ベア間のスイッチングに伴う設定・解約時に組入比率を低下させたことなどの影響により、当ファンドの基準価額は上昇しました。

■ 組入ファンドの当期中の騰落率

組入ファンド	騰落率
パッシブ・トラスト - インディア 2x ベア・ファンド	△5.0%
マネーアカウントマザーファンド	0.0%

■ 投資環境

【インド株式市況】

期初から3月上旬にかけては、政権交代に伴う経済構造改革の先行き不安や通貨下落等から弱含む局面もありましたが、インフレ懸念の後退やインド準備銀行が2度にわたる利下げを行ったことなどから上昇しました。3月中旬から6月上旬にかけては、経済構造改革進展への期待感やインド準備銀行の追加利下げ実施、米国の利上げ先送り観測等を受けて上昇する局面もありましたが、原油価格の反発や米国の利上げへの警戒感、ギリシャ問題を巡る不透明感から軟調に推移しました。6月下旬から9月中旬にかけては、降雨量増加により干ばつによる農作物の不作懸念等が後退し、インフレ率が鈍化したことから利下げ期待が台頭し上昇傾向で推移しましたが、経済構造改革の遅れや世界的な景気先行きへの懸念を背景とした世界的な株式市場下落を受けて下落しました。9月下旬から期末にかけては、インド準備銀行が今年4回目となる予想外的大幅利下げを実施したことや米国の早期利上げ観測の後退、ECB（欧州中央銀行）の追加緩和示唆が好感されて上昇した後、米国の年内利上げ観測やインドの州議会選挙で国政与党が惨敗したため経済・政治改革が遅れることなどが懸念され、一進一退で推移しました。



Nifty 50指数について

T&Dダブルプル・ベア・シリーズ4（インド・ダブルベア4）（以下、「本商品」）は、インド インデックス サービスーズ&プロダクツ リミテッド（以下、IISL）によって支持、保証、販売又は販売促進されるものではありません。IISLは、明示的にも暗示的にも、本商品の所有者もしくは一般の者に対して、有価証券全般または本商品に関する投資について、またインドにおいてNifty 50指数（以下、「本指数」）が市場全般のパフォーマンスに追従する能力について、何ら表明、条件付け又は保証するものではありません。IISLのT&Dアセットマネジメント株式会社に対する唯一の関係は、IISLがT&Dアセットマネジメント株式会社又は本商品に関係なく決定、作成及び計算する本指数並びにIISLの登録商標についての利用許諾を与えることです。IISLは、本指数の決定、作成及び計算において、T&Dアセットマネジメント株式会社又は本商品の所有者の要求等を考慮に入れる義務を負うものではありません。IISLは本商品の販売に関する時期、価格の決定、又は本商品を現金に換算する式の決定もしくは計算に責任を負わず、また関わっていません。IISLは、本商品の管理、マーケティング又は取引に関する義務又は責任を何ら負うものではありません。IISLは、Nifty 50指数の計算及びその元になるデータの正確性や完全性を保証するものではありません。また、IISLは、本指数に含まれるいかなる誤り、欠落又は障害に対する責任を負いません。IISLは、本指数又はそれらに含まれるデータの使用により、T&Dアセットマネジメント株式会社、本商品の所有者又はその他の人や組織に生じた結果に対して、明示的にも暗示的にも保証しません。IISLは、本指数又はそれらに含まれるデータに関して、商品性の保証や適合性について何ら保証するものではないことを明示し、かつそれに関して明示もしくは暗示の保証を行いません。以上のことに関わらず、特定の、罰則的、間接的あるいは結果的な損害（利益の損失を含む）について、仮にその可能性について事前に通知されていたとしても、IISLが責任を負うことはありません。

【国内短期金融市況】

国庫短期証券3ヵ月物利回りは0.00%程度で横ばいに推移しました。

期初は0.001%でしたが、7月上旬に実施された国庫短期証券入札の結果が堅調だったことから利回りは一時△0.077%まで低下しました。その後、7月中旬の国庫短期証券入札の結果が軟調だったことから再び水準を戻し、0.00%程度に上昇しました。11月に入ると日銀による買入オペ金額の拡大をきっかけに再度利回りは低下し、期末の利回りは△0.037%程度となりました。

■ 当該投資信託のポートフォリオ

【当ファンド】

期を通じて、「パッシブ・トラスト - インディア 2x ベア・ファンド」を高位に組み入れました。組入比率は、追加設定・解約や組入投資信託証券の価格の変動による運用資産の増減に伴って、概ね90～95%程度となりました。残りの資産につきましては、「マネーアカウントマザーファンド」およびコールローン等で運用を行いました。

【パッシブ・トラスト - インディア 2x ベア・ファンド】

主として日本国債等の現物資産へ投資する一方で、JPモルガンチェースバンクN. A.等を相手方とするスワップ取引（元本交換を伴わない）を高位に組み入れ、実質的に日々の基準価額の値動きが、Nifty 50指数の日々の騰落率の概ね2倍程度反対となる投資成果を目指して運用を行いました。

【マネーアカウントマザーファンド】

国庫短期証券の組入比率は、一時期マイナス利回りのため新規組み入れを見送り低下した期間もありましたが、その他においては、概ね50%以上の水準とし、期末は54.5%程度となりました。残りの資産については、全額コールローン等で運用を行いました。

■ 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載しておりません。

■ 分配金

1口当たりの分配金（税込み）は、基準価額水準、市況動向等を勘案し、見送らせていただきました。収益分配に充てなかった利益は、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

■ 今後の運用方針

【当ファンド】

引続き「パッシム・トラスト - インディア 2x ベア・ファンド」の組入比率を高位に保ち、「マネーアカウンタマザーファンド」への投資も継続する方針です。

【パッシム・トラスト - インディア 2x ベア・ファンド】

主として日本国債等の現物資産へ投資する一方で、JPモルガンチェースバンクN. A.等を相手方とするスワップ取引（元本交換を伴わない）を高位に組入れ、実質的に日々の基準価額の値動きが、Nifty 50指数の日々の騰落率の概ね2倍程度反対となる投資成果を目指して運用を継続する方針です。

【マネーアカウンタマザーファンド】

今後の国内景気は、雇用所得環境の改善から持ち直すとみられますが、外需の弱さ等が下押し圧力として作用し、景気回復は緩やかなものにとどまるとみられます。さらに世界的な物価上昇圧力の低さを考慮すると、インフレ期待が急速に盛り上がる可能性は低いと考えられます。今後も日銀の国債買入が金利抑制要因として作用することから、国内短期金利は引続き低位で推移すると予想します。

相対的に金利リスクの高い長期債への投資は見送り、引続き短期国債等を中心とした安定的な運用を行います。

1口当たりの費用明細（2014年12月10日から2015年12月10日まで）

費用の明細

項目	当期		項目の概要
	2014/12/10～2015/12/10 金額	比率	
平均基準価額	9,380円		期中の平均基準価額です。
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	85円 (41) (41) (4)	0.910% (0.433) (0.433) (0.043)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 運用財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) その他費用 (監査費用)	1 (1)	0.007 (0.007)	(b) その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合計	86	0.917	

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 平均基準価額の円未満は切捨て、それ以外の各金額は項目ごとに四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、当ファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

(注) 「比率」欄は1口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

売買および取引の状況 (2014年12月10日から2015年12月10日まで)

(1) 投資信託証券

		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
外 国 (邦貨建)		千口	千円	千口	千円
	パッシム・トラスト - インディア 2x ベア・ファンド	311.77	2,727,540	309.52	2,785,143

(注) 金額は受渡代金。単位未満は切捨て。ただし口数が単位未満の場合は小数で記載。

(2) 親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
マネーアカウントマザーファンド	19	20	—	—

(注) 単位未満は切捨て。

利害関係人との取引状況等 (2014年12月10日から2015年12月10日まで)

当期における利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

自社による当ファンドの設定・解約状況 (2014年12月10日から2015年12月10日まで)

設定時残高 (元本)	当期設定元本	当期解約元本	期末残高 (元本)	取 引 の 理 由
千円	千円	千円	千円	
10,000	—	10,000	—	当初設定時における取得およびその処分 商品性を適正に維持するための取得およびその処分
—	1,990	970	1,020	

(注) 単位未満は切捨て。

組入資産の明細 (2015年12月10日現在)

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

フ ァ ン ド 名	当 期 末		
	口 数	評 価 額	比 率
	千口	千円	%
パッシム・トラスト - インディア 2x ベア・ファンド	2.25	21,383	93.2

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。ただし口数が単位未満の場合は小数で記載。

(2) 親投資信託残高

種 類	当 期 末	
	口 数	評 価 額
	千口	千円
マネーアカウントマザーファンド	19	20

(注) マネーアカウントマザーファンド全体の受益権口数は1,051,336千口です。

(注) 単位未満は切捨て。

投資信託財産の構成 (2015年12月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
パッシム・トラスト - インディア 2x ベア・ファンド	21,383	45.4
マネーアカウントマザーファンド	20	0.0
コール・ローン等、その他	25,742	54.6
投資信託財産総額	47,145	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

資産、負債、元本および基準価額ならびに損益の状況

資産、負債、元本および基準価額の状況

2015年12月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	47,145,081円
コール・ローン等	25,741,794
パッシム・トラスト - インディア 2x ベア・ファンド(評価額)	21,383,280
マネーアカウントマザーファンド(評価額)	20,000
未 収 利 息	7
(B) 負 債	24,190,799
未 払 解 約 金	23,433,179
未 払 信 託 報 酬	750,540
そ の 他 未 払 費 用	7,080
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	22,954,282
元 本	22,410,000
次 期 繰 越 損 益 金	544,282
(D) 受 益 権 総 口 数	2,241口
1 口 当 たり 基 準 価 額(C/D)	10,243円

(注) 設定時元本額 10,000,000円
 期中追加設定元本額 4,009,200,000円
 期中一部解約元本額 3,996,790,000円
 (注) 1口当たり純資産額は10,243円です。

損益の状況

当期 自2014年12月10日 至2015年12月10日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	307円
受 取 利 息	307
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	3,402,894
売 買 益	34,456,295
売 買 損	△31,053,401
(C) 信 託 報 酬 等	△ 1,746,138
(D) 当 期 損 益 金(A+B+C)	1,657,063
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	△ 1,112,781
(配 当 等 相 当 額)	(821)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 1,113,602)
(F) 合 計(D+E)	544,282
(G) 収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金(F+G)	544,282
追 加 信 託 差 損 益 金	△ 1,112,781
(配 当 等 相 当 額)	(821)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 1,113,602)
分 配 準 備 積 立 金	1,657,063

(注) 損益の状況の中で
 (B) 有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。
 (C) 信託報酬等には、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
 (E) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

分配金の計算過程

計算期間末における費用控除後の配当等収益(132円)、費用控除後の有価証券売買等損益(1,656,931円)および収益調整金(821円)より、分配対象収益は1,657,884円(1口当たり739円)となりましたが、当期の分配は見送らせていただきました。

分配金のご案内

分配金および分配原資の内訳

(単位:円・%、1口当たり・税引前)

項目	当期
	2014年12月10日 ～2015年12月10日
当期分配金	0
(対基準価額比率)	—
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	739

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

補足情報

マネーアカウントマザーファンドの主要な売買銘柄

公社債(上位10銘柄)

2014年12月10日から2015年12月10日まで

買	付	売	付
銘	柄	銘	柄
		金	額
		千円	
第554回国庫短期証券	580,000	—	—
第496回国庫短期証券	369,987		
第503回国庫短期証券	299,996		
第525回国庫短期証券	299,991		
第524回国庫短期証券	279,997		
第95回利付国債(5年)	191,355		
第277回利付国債(10年)	180,869		
第278回利付国債(10年)	100,543		
第560回国庫短期証券	59,999		
第93回利付国債(5年)	43,026		

(注) 金額は受渡代金(経過利子分は含まれておりません)。単位未満は切捨て。

組入投資信託証券の内容

パッシム・トラスト - インディア 2x ベア・ファンド

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

分 類	ケイマン籍／外国投資信託／円建
運用の基本方針 主な投資対象	主として円建の日本国債およびスワップ取引に投資を行い、安定的なインカム収益の獲得と信託財産の成長を目指して運用を行います。 主として円建の日本国債を投資対象とします。 スワップ取引等のデリバティブの利用はヘッジ目的に限定しません。
投資態度	①主として円建の日本国債を投資対象とします。 ②J PモルガンチェースバンクN. A. ロンドン支店、もしくはJ Pモルガンチェースグループに属する金融機関をカウンターパーティとしたスワップ取引を行います。概ね純資産相当額程度で行うものとします。 ③スワップ取引を利用して、実質的に日々の基準価額の値動きが以下の通りとなる投資成果を目指して運用を行います。 【インドア 2x ベア・ファンド】 インドの株価指数であるNifty 50指数の日々の騰落率の概ね2倍程度反対 資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。
主な投資制限	①店頭オプション、上場オプション、ETFに原則として直接投資を行いません。 ②有価証券の空売りは行いません。 ③純資産総額の10%を超える借り入れは行いません。 ④一発行会社の発行済総株式数の50%を超えて、当該発行会社の株式に投資しません。 ⑤流動性にかかる資産の組入れは15%以下とします。 ⑥運用会社ならびに管理会社は、自己または投資信託受益証券以外の第三者の利益を図る目的で行う取引等は行いません。
決 算 日	6月30日
分 配 方 針	原則として、年1回分配を行います。
投資顧問会社 管理会社	J. P. モルガン・マンサール・マネジメント・リミテッド

※次ページ以降の記載は、J Pモルガン証券株式会社より入手した情報をもとに作成しております。(1)は監査済報告書を当社が一部翻訳したもの、(2)は保有明細をもとに当社が作成したものです。当社は、その内容の正確性・完全性を保証するものではありません。

(1) 損益計算書

計算期間：2014年12月11日～2015年6月30日

単位：千円

収益	
投資に係る実現損益	51,394
受取利息（アモチゼーションによるものを含む）	112
収益合計	51,506
費用	
管理報酬	1,034
監査費用	60
保管費用	920
投資運用会社報酬	(2,615)
当初設立費用	407
受託手数料	549
弁護士報酬	65
その他費用	231
運用費用合計	651
税引前損益	50,855
源泉徴収税	(21)
運用による純資産増減額	50,834

(注) 日付は現地基準です。

(注) () 書きは負数です。

(2) 組入資産の明細

作成基準日：2015年6月30日

債券現物

単位：円

銘柄名	利率	償還日	額面	評価額
第337回利付国債（2年）	0.1%	2016/2/15	111,500,000	111,567,235
第274回利付国債（10年）	1.5	2015/12/20	12,000,000	12,084,180
第94回利付国債（5年）	0.6	2015/12/20	11,500,000	11,532,143
合計				135,183,558

スワップ

単位：円

想定元本額	評価額
508,100,000	(53,819,616)

(注) 日付は現地基準です。

(注) () 書きは負数です。

マネーアカウントマザーファンド

運用報告書（全体版） 第12期（決算日 2015年12月10日）
（計算期間 2015年6月11日から2015年12月10日まで）

「マネーアカウントマザーファンド」は、2015年12月10日に第12期決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	信託期間は原則無期限です。
運用方針	安定した収益の確保を目標として運用を行います。
主要運用対象	わが国の国債、公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資は行いません。外貨建資産への投資は行いません。

最近5期の運用実績、基準価額の推移等

最近5期の運用実績

決算期	基準価額		債 組 入 比	券 率	債 先 物 比	券 率	純資産総額
	円	騰落率					
8期（2013年12月10日）	10,034	0.0	77.9	%	—	%	百万円 359
9期（2014年6月10日）	10,036	0.0	80.6	%	—	%	458
10期（2014年12月10日）	10,038	0.0	21.5	%	—	%	650
11期（2015年6月10日）	10,038	0.0	9.6	%	—	%	417
12期（2015年12月10日）	10,038	0.0	54.5	%	—	%	1,055

(注) 基準価額は1万口当たり。

(注) 先物比率＝買建比率－売建比率

(注) 当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準 価 額 騰 落 率	債券組入比率	債券先物比率
期首(前期末) 2015年6月10日	円 —	% 9.6	% —
6月末	10,038	0.0	70.7
7月末	10,038	0.0	—
8月末	10,039	0.0	—
9月末	10,039	0.0	—
10月末	10,039	0.0	61.8
11月末	10,039	0.0	51.6
期 末 2015年12月10日	10,038	0.0	54.5

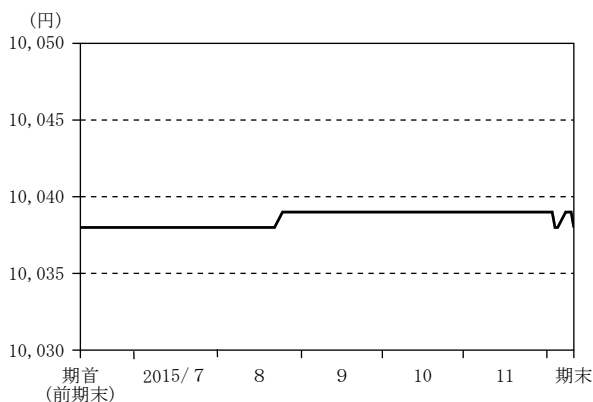
(注) 基準価額は1万円当たり。騰落率は期首比。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

当期の運用状況と今後の運用方針

■ 基準価額の推移



■ 基準価額の主な変動要因

期末の基準価額は10,038円となり、期首に比べて横ばいとなりました。

運用対象である国庫短期証券やコールローンの利回りが極めて低位で推移したため、基準価額は横ばいとなりました。

■ 投資環境

【国内短期金融市況】

国庫短期証券3ヵ月物利回りは0.00%程度で横ばいに推移しました。

期初は0.001%でしたが、7月上旬に実施された国庫短期証券入札の結果が堅調だったことから利回りは一時 $\Delta 0.077\%$ まで低下しました。その後、7月中旬の国庫短期証券入札の結果が軟調だったことから再び水準を戻し、0.00%程度に上昇しました。11月に入ると日銀による買入オペ金額の拡大をきっかけに再度利回りは低下し、期末の利回りは $\Delta 0.037\%$ 程度となりました。

■ 当該投資信託のポートフォリオ

国庫短期証券の組入比率は、一時期マイナス利回りのため新規組入れを見送り低下した期間もありましたが、その他においては、概ね50%以上の水準とし、期末は54.5%程度となりました。残りの資産については、全額コールローン等で運用を行いました。

■ 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載しておりません。

■ 今後の運用方針

今後の国内景気は、雇用所得環境の改善から持ち直すとみられますが、外需の弱さ等が下押し圧力として作用し、景気回復は緩やかなものにとどまるとみられます。さらに世界的な物価上昇圧力の低さを考慮すると、インフレ期待が急速に盛り上がる可能性は低いと考えられます。今後も日銀の国債買入が金利抑制要因として作用することから、国内短期金利は引続き低位で推移すると予想します。

相対的に金利リスクの高い長期債への投資は見送り、引続き短期国債等を中心とした安定的な運用を行います。

1万口当たりの費用明細 (2015年6月11日から2015年12月10日まで)

当期において発生した費用はありません。

売買および取引の状況 (2015年6月11日から2015年12月10日まで)

公社債

		買 付 額	売 付 額
		千円	千円
国内	国債証券	1,449,792	— (914,000)

(注) 金額は受渡代金(経過利子分は含まれておりません)。単位未満は切捨て。

(注) () 内は償還による減少分です。

当期中の主要な売買銘柄 (2015年6月11日から2015年12月10日まで)

公社債

買	付	売	付
銘	柄	銘	柄
		金額	金額
		千円	千円
第554回国庫短期証券	580,000	—	—
第524回国庫短期証券	279,997		
第95回利付国債(5年)	191,355		
第277回利付国債(10年)	180,869		
第278回利付国債(10年)	100,543		
第560回国庫短期証券	59,999		
第93回利付国債(5年)	43,026		
第334回利付国債(2年)	14,000		

(注) 金額は受渡代金(経過利子分は含まれておりません)。単位未満は切捨て。

利害関係人との取引状況等 (2015年6月11日から2015年12月10日まで)

当期における利害関係人との取引はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

組入資産の明細 (2015年12月10日現在)

下記は、マネーアカウントマザーファンド全体 (1,051,336千円) の内容です。

公社債

(A) 国内 (邦貨建) 公社債<種類別>

区 分	当 期			末			
	額面金額	評価額	組入比率	うちBB格 以下組入比率	残存期間別組入比率		
	千円	千円	%	%	5年以上	2年以上	2年未満
国債証券	574,000 (60,000)	575,589 (59,999)	54.5 (5.7)	— (—)	— (—)	— (—)	54.5 (5.7)

(注) () 内は非上場債で内書きです。

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(注) 残存期間が1年以内の公社債は、原則として償却原価法により評価しています。

(注) 額面・評価額の単位未満は切捨て。

(B) 国内 (邦貨建) 公社債<銘柄別>

区 分	当 期			末	
	銘 柄	年 利 率	額面金額	評 価 額	償還年月日
国債証券	第560回国庫短期証券	—	60,000	59,999	2015/12/28
	第93回利付国債 (5年)	0.5	43,000	43,003	2015/12/20
	第95回利付国債 (5年)	0.6	191,000	191,320	2016/3/20
	第277回利付国債 (10年)	1.6	180,000	180,779	2016/3/20
	第278回利付国債 (10年)	1.8	100,000	100,486	2016/3/20
合 計	銘 柄 数 金 額	5 銘柄	574,000	575,589	

(注) 額面・評価額の単位未満は切捨て。

投資信託財産の構成 (2015年12月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
公 社 債	575,589	54.5
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	479,784	45.5
投 資 信 託 財 産 総 額	1,055,373	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

資産、負債、元本および基準価額ならびに損益の状況

資産、負債、元本および基準価額の状況

2015年12月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	1,055,373,400円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	478,388,831
公 社 債(評価額)	575,589,656
未 収 利 息	149,015
前 払 費 用	1,245,898
(B) 純 資 産 総 額(A)	1,055,373,400
元 本	1,051,336,241
次 期 繰 越 損 益 金	4,037,159
(C) 受 益 権 総 口 数	1,051,336,241口
1万口当たり基準価額(B/C)	10,038円

(注) 期首元本額 416,386,688円
 期中追加設定元本額 1,088,169,819円
 期中一部解約元本額 453,220,266円

(注) 1口当たり純資産額は1,0038円です。

(注) 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本の内訳

T&D通貨トレード新興国社債ファンド(毎月分配型)円ヘッジ・コース	96,611,064円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド(毎月分配型)米ドル・コース	18,318,477円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド(毎月分配型)米ドルベア・コース	1,179,395円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド(毎月分配型)ユーロ・コース	911,922円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド(毎月分配型)ユーロベア・コース	6,427,223円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド(毎月分配型)豪ドル・コース	139,539,638円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド(毎月分配型)豪ドルベア・コース	340,231円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド(毎月分配型)リアル・コース	25,508,528円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド(毎月分配型)インドネシアリアル・コース	1,523,036円
T&D Jリートファンド限定追加型1402	1,196,351円
T&Dダブル・ベア・シリーズ4(インド・ダブル4)	19,925円
T&Dダブル・ベア・シリーズ4(インド・ダブルベア4)	19,925円
T&Dダブル・ベア・シリーズ4(中国・ダブル4)	19,925円
T&Dダブル・ベア・シリーズ4(中国・ダブルベア4)	19,925円
T&Dダブル・ベア4(ブラジル・ダブルが替ヘッジなし4)	19,925円
T&Dダブル・ベア4(ブラジル・ダブルベアが替ヘッジなし4)	19,925円
T&Dダブル・ベア4(ブラジル・ダブルが替ヘッジあり4)	19,925円
T&Dダブル・ベア4(ブラジル・ダブルベアが替ヘッジあり4)	19,925円
T&Dダブル・ベア・シリーズ4(リアル・ダブル4)	19,925円
T&Dダブル・ベア・シリーズ4(リアル・ダブルベア4)	19,925円
T&Dダブル・ベア・シリーズ4(金・ダブル4)	19,925円
T&Dダブル・ベア・シリーズ4(金・ダブルベア4)	19,925円
T&Dダブル・ベア・シリーズ4(マネー・ベア4)	759,541,276円

損益の状況

当期 自2015年6月11日 至2015年12月10日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	169,573円
受 取 利 息	169,573
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 204,934
売 買 益 損	86
売 買 損	△ 205,020
(C) 当 期 損 益 金(A+B)	△ 35,361
(D) 前 期 繰 越 損 益 金	1,592,073
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	4,240,181
(F) 解 約 差 損 益 金	△1,759,734
(G) 合 計(C+D+E+F)	4,037,159
次 期 繰 越 損 益 金(G)	4,037,159

(注) 損益の状況の中で

(B) 有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(E) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

(F) 解約差損益金とあるのは、一部解約の際、元本から解約価額を差引いた差額分をいいます。